

第3 リスクアセスメントの演習の実施に実施について

【1】 演習の進め方

1 演習の必要性

実際に自社の事業場にリスクアセスメントの手法を導入し、実施手順に沿ってリスクアセスメントを進める前に、「危険性又は有害性と発生のおそれのある災害の記述」、「リスク見積り」、「リスク低減措置の検討」などを演習することにより、リスクアセスメントの進め方が具体的にわかるようになります。さらに危険性又は有害性に対する考え方について参加者の相互理解が深まることも期待できます。

ここでは、以下の6作業の事例を用意しました（イラストはP19、20を参照ください）。

この作業例をもとに、4～6名程度のグループで演習を実施します。グループではまず、リーダー（司会）、書記、発表者を決めます。次の「演習の進め方」により、課題の作業例についてグループで検討した後、その結果をグループごとに発表します。

- | | |
|-----------|-----------|
| 1. 溶接作業 | 4. 印刷製本作業 |
| 2. 塗装作業 | 5. 食品加工作業 |
| 3. 製品組立作業 | 6. 荷役作業 |

2 演習の進め方（役割演技方式）

6種類の演習用作業例から1つを選択します。この作業例について、「リスクアセスメント実施一覧表」（演習用紙）を使用して以下のことをグループで行います（時間は目安です）。

- ① 個人で「2危険性又は有害性と発生のおそれのある災害」を考え記入（3分）
- ② 個人でリスクアセスメント実施一覧表の4～6欄への記入（8分）

「2危険性又は有害性の発生のおそれのある災害」、「3既存の災害防止対策」の記載例に対し、次により記入する。

- ・「4リスクの見積り」を各自が実施する。
- ・「5リスク低減措置案」を各自で考え記入する。
- ・「6措置実施後のリスクの見積り」を各自で実施する。

※ リスクの見積りは、リスク見積りの方法（P15）を参照して実施します。

- ③ グループ検討（12分）
記入した内容についてグループで検討し、統一します。
- ④ グループごとの発表（各グループ5分）
リスクアセスメントの実施結果をグループごとに発表〔各グループ5分〕し、講師が講評します。
- ⑤ 別作業例についての演習の実施
同様のグループでの演習を別の作業例について実施します。

<演習作業例（1）>



① 溶接作業（他者近くでのアーク溶接）



（高所でのアーク溶接）



② 塗装作業（調色及び希釈）



（吹付け塗装）



③ 製品組立作業（クレーン使用）



（準備調整）

<演習作業例（2）>



④印刷製本作業（断裁（刃・包丁交換）



（印刷作業）



⑤食品加工作業（惣菜加工（フライヤー）作業）



（おにぎり成型作業）



⑥荷役作業（フォークリフト荷役作業）



（シート掛け作業）